

令和5年度 栃木県養護教育研究会春季研修会開催(471名参加)

期日 令和5年6月27日(火)

会場 栃木県総合文化センター メインホール

1 開会

2 会長あいさつ 栃木県養護教育研究会副会長 渡部 るみ子

3 来賓あいさつ 栃木県教育委員会事務局 健康体育課長 角田 正史 様



4 研究発表

(1) 「生涯にわたる健康を目指した健康教育の推進

～コロナ禍で養護教諭が中心となる活動を通して～

発表者 宇都宮市立一条中学校 佐藤真由美 先生

宇都宮市立晃陽中学校 永井 千尋 先生

(2) 「小中9年間を見通した性に関する指導 ～養護教諭の実践～」

発表者 鹿沼市立津田小学校 高橋 瞳 先生

鹿沼市立みどりが丘小学校 津田由香里 先生



5 指導・助言 栃木県教育委員会事務局 健康体育課 指導主事 渡邊 晶子 先生

栃木県総合教育センター 指導主事 上山 和恵 先生

※研究発表内容、指導・助言につきましては、「しろたえ50号」に記載されます。

6 講演 「思春期のメンタルヘルス ～子どもの困りごとに応じた対応～」

講師 茨城大学人文社会科学部 准教授 金丸 隆太 先生

文明の進歩により人生の選択肢は増えたが、子どもは全ての役割期待を成就することは出来ず、叫び声を押し殺している。声にならないその声を受け止め、子どもを解き放つために、私たち養護教諭ができることは…茨城県公立学校でスクールカウンセラーも務める金丸先生に現場での事例も交えながら、お話を伺いました。



①現代の子どもは親のために作られる 子育ては「なるようになる」から「するようにする」へ

②現代の思春期は役割が多すぎる 反抗という役割は奪われているので、低評価への不満が複雑に表現される

③思春期は河口 親も教員も子どもに期待する一方で「でもどうなるかはわからないものだよ」ということをもっと教える必要がある

④海を教えよう 子どもが学んだことをどう使おうが本人の自由なのに、使い方まで教えすぎているか？

「あとは4コマ目を書くだけ」と思っている子どもに「何回でも白紙に戻せる」ことを教えよう、「子どもの挫折を大人の価値観が作っていること理解し、反省と共に受け止める」、「私たちは嫌がられながらも心を配り続けるしかない」、「教員は大人の中でも最も広い価値観を持つ必要がある人達」等、心に響く言葉をたくさんいただきました。

令和5年度栃木県養護教育研究会総会

開会に先立ち、去る令和4年10月29日に御逝去された前会長 高橋貴子先生の後冥福をお祈りし、黙祷が捧げられました。

総会では、新旧役員交代、退任される5人の先生方、新会長 大牧 稔先生からの挨拶がありました。新役員、事業計画・予算案が承認され、令和5年度がスタートしました。



♣ 今回の研修当番は、那須地区でした。ご協力いただきありがとうございました。♣